

「龍頭が滝案内」 第5回

「今回は明治時代の貴重な絵です」

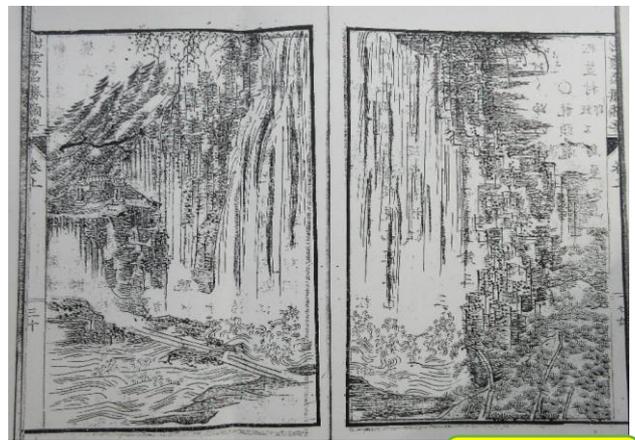
画像①は、明治14（1881）年に出版された『出雲名勝摘要』という本の中にある龍頭が滝の挿絵です（出雲中央図書館蔵）。

この本は出雲にある観光地（名勝）のうちから15か所を取り上げ、その由緒や魅力などを紹介したもので、千鳥城、松江大橋、立久恵峡、鬼の舌震などとともに、龍頭が滝が選ばれています。奇怪な石がそびえ立ち龍が飛び立とうしているようだ、といったコメントとともに、4人の歌人の漢詩や和歌が記されています。当時の旅のガイドブックといったところでしょうか。

そして挿絵です。迫力のある豊富な滝の水、柱状の岩も見えます。手前には橋のようなものがあり、それを進むとお堂と灯籠にたどり着きます。滝神社だと思われます。拡大したものが画像②です。

それにしてもガイドブックに載るなんて、明治時代でも著名な滝だったんですね。

多くの人がこの神社の前で手を合わせたことでしょう。



画像①



画像②

《参考》この本に関しては今井書店より訳注のついた

単行本が出ています。

山陰研究ブックレット10 要木純一著『訳注 出雲名勝摘要』